

# 心の栄養剤No86 「のび太という生き方！」

## 「のび太という生き方！」

ドラえもんマンガにおいて、ひみつ道具の登場しない作品はほとんど存在しません。そして、大部分のひみつ道具には、常に何らかのメッセージが込められています。

たとえば、ひみつ道具「かならず当たる手相セット」の場合、最初はとてもうまく手相がピタリと当たりますが、途中から脱線してはずれてばかりになってしまいます。するとのび太は「手相なんて気にしているときりがない。ぼくなり、がんばっていくよ」と宣言し、ドラえもんから「えらい！のび太くんしっかり！」と激励されています。

このように、ひみつ道具は初めのうちは、次々に起こるあらゆる問題に対してうまく機能し、スムーズな解決への期待を抱かせます。しかしながら、最終段階では、たとえひみつ道具を使用しても、根本的な問題の解決にはなんらつながらないといった結果に終わります。

またそれは、『一生に一度は百点を・・・』にも見ることができます。このお話は、ドラえもんが提供したひみつ道具「コンピューターペンシル」によって、のび太がおそらく一生に一度、テストで100点をとるチャンスが訪れます。これは誰でもすらすらとテストの問題が解ける、夢のようなペンシルなのですが、テストの前の晩にドラえもんは、このひみつ道具を使おうとするのび太を非難します。

のび太は「かまうもんか！明日、絶対に使ってやるぞ！」と決意しながら眠りにつきました。でも、テスト当日ドラえもんの昨晚の顔が脳裏に浮かび、のび太は「やめた！普通の鉛筆でやろう」と決意を覆しています

結局、ドラえもんのひみつ道具の基本的なスタンスは、ひみつ道具に頼らないで、自力で問題の解決に対処することがベストである、ということなのです。のび太にとってひみつ道具とは、あくまでも「自分のいいところ」を伸ばしたり、ちょっと足りないなにかを後押ししたり、また潜在意識のなかで眠っているのび太の優しい心を覚醒させたりする、触媒のような存在なのです。

『雪山のロマンス』で、のび太は相変わらずドジばかり繰り返しますが、のび太の隠れた素質を数多く見てきたしずかちゃんは、ついにのび太との結婚を決意します・・・さらに、『のび太の結婚前夜』では、しずかちゃんの「私・・・不安なの。うまくやっていけるかしら」の問いに対して、しずかちゃんのパパはきっぱりと「やれるとも。のび太くんを信じなさい」と答え・・・ドラえもんマンガ史上もっとも心に響く次のアドバイスをします。

「のび太くんを選んだきみの判断は正しかったと思うよ。あの青年は人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことのできる人だ。それが人間にとって大事なことなんだからね」・・・この話を聞きながら、しずかちゃんのはのび太との幸せな結婚生活を確信し、結婚式に臨んだのでした。

テストを受ければ5回に1回は0点、先生にしょっちゅう廊下に立たされる。放課後にはジャイアンやスネ夫にいじめられ、ママから叱られてばかりいるのび太くん。しかし、幾多の困難を経て、真の優しさや思いやりを身につけた彼は、ついに憧れ続けたマドンナ・しずかちゃんを射止め、幸せな結婚生活を手にするのです

ドラえもんの「ひみつ道具」を考えると、現実にもほんの50～60年前には考えられなかった「いろんな道具」で溢れていると思います。自動車～新幹線～パソコン～携帯電話～テレビなど・・・それらの道具が増えた事で、確かに便利になったとは思いますが・・・失ったものも多いような気がしてなりません！特に思うのは～人が自力で生き抜ける為の基本的なたくましさや知恵そして、コミュニケーション力などなど。

あるアンケート（上場会社100社）で、「今企業が求めている人材は」との質問で第一位だったのがズバリ『話せる能力』だったそうです！私の予想とは大きく違いますが、何となくわかるような気がします！！だって現代ではコンビニ行って～ネットを眺め～メールを打って～テレビ見て一日一言も話さず生きていこうと思えば可能で、実際そんな生活を疑問も感じず過ごしている人も多くいると思います。

今、夏休み真っ只中～子供さんたちが真っ黒に日焼けして、汗いっぱいかいてたくましさを身につける期間となってキラキラした思い出をたくさん作られる事を願ってます！

P.S.

ちなみに私は完璧なメカオンチで、携帯の機能すら把握していません！！でも、その分人一倍『話す力』はあるとの自信がありま～す！！（笑）  
“負け惜しみ”じゃありません～ん、その証拠に多少不便はあってもパソコン使わなくても楽しく顔晴れてま～す（笑）

